

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

12月中旬、松本信用金庫松川支店会議室で開催された「北部ブロック合同後継者育成勉強会」に参加した。池田支店の「信高会」、

松川支店の「信松会」と白馬支店の「信白会」の合同企画で第4回を数える勉強会だ。若い参加者が目立ち、会議室の前列の席を確保して熱心に聞き入っている。講師は、4月に融資部から本店営業部長に着任した

地域経済を担う若き後継者の育成について考えてみませんか

河修二さんだ。信用金庫業務での講師だけでなく、松本大学での地域金融事情での講義や、マップマガジン主催のセミナーでの講師など金融機関を代表する金融経済のスペシャリストだ。

今回のテーマは、どのような会社が生き残れるのかこの厳しい時代に生き残るすべはあるのか企業再生の現場から。まず日本経済が直面している課題と、地域を取り巻く環境の厳しさの報告。そして魅力的な企業の在り方について学ばれた。

「老舗」から、生き残る企業の条件が学べるとの話は説得力があった。約4割以上の企業が創立以来変えていない、家訓・社是・社訓を大切にしている事。長い時間をかけて

築いて来た信頼を重んじる。その次に「進取の気性」。時代に合わせ変化し続けなければ生き残れないことに意識した経営が大切だとの回答が老舗経営者に多いとの説明。百年以上事業を続ける中で、当然事業環境は変化していく。その変化にシなやかに対応してきたのが老舗企業の実像だったのだと再認識する。この変化を恐れずに常に新しい可能性を模索して企業活動を継続していく長寿企業の姿勢、企業だけでなく行政運営に携わっている関係者も含めて参

考にすべき点なのだろう。経営等の改善を進めても、なかなかうまく行く事が少ないが、強い信念を抱き、リーダーの条件である知性・説得力・耐久力・自制力・持続力を兼ね



限られた時間での講義、多くの事を知ってほしい思いが若い経営者の心を熱くする

備えた人材が大北地域の活性化に尽力してほしいと願った講義でもあった。
(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)